



IMAGINE
ROTARY

＜本年度クラブ会長方針＞ WEEKLY REPORT No.1589
ロータリーライフを楽しみ、
クラブの持続的成長を図ろう

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 加藤巳千彦 事務局 名古屋市中区栄4-7-10 栄第8ロイヤルビル6F
幹事 吉田 憲一 電話(052)251-0181 FAX(052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

第1863回例会

基本的教育と識字率向上月間
／ロータリーの反月間
令和4年9月8日(木)
新会員卓話
出席計算数 会員57名

出席率 55名中50名出席
90・31%
前々回出席率 92・31%

例年プログラム

★新会員卓話

ロータリーソング

「われらひまわり」(歌唱なし)

ゲスト

会員組織委員会ゲスト

(丹下 富博さんご友人)

ないところのクリニック

院長 内藤 剛大さん

ニコソックス

内藤啓喜さん、河合誠弥さん、新会員卓話楽しみにしています。

尾上 昇・藤田 澈
横井 衛・木村 光徳
酒井 修・田崎 雅三
鬼頭 茂成・高木 政義
岡村 隆徳・杉本 忠夫
仲林 宏昌・西岡 秀樹

本日のゲスト内藤剛大先生、ようこそお越し下さいました。
吉田 憲一・丹下 富博
内藤さん、河合さん、頑張れ！

林 順治・松岡 毅



本日9月8日は、国際識字デーです。1965年9月8日に、イランのテヘランで開かれた世界文相会議で、イランのパーレシ王国が軍事費の一部を識字教育に回すこ

本日の卓話楽しみにしています。
新井 雅博
内藤さん、河合さん、卓話頑張ってください。
鷲津 光悦
新会員卓話させて頂きます。よろしくお願いたします。
内藤 啓喜・河合 誠弥
川島さん大変お世話になりました。
荻葉 賢一
毎朝トランポリンで体力維持を行っています。
吉田 隆彦
本日が誕生日です。川合 美幸
本日もよろしくお願いたします。
深谷 昭広

会長挨拶 会長 加藤巳千彦

皆さん、こんにちは。本日のゲスト・ピジターを紹介させていただきます。本日のゲストは、丹下富博さんのご友人で、ないところのクリニック院長、内藤剛大さんです。本日9月8日は、国際識字デー

とを提案したことがきっかけで、アメリカのジョンソン大統領が米国議会に9月8日を「国際識字デー」に制定するよう呼びかけ、「ユネスコが国際デーの一つとして」「国際識字デー」を制定しました。「識字」とは「文字の読み書きができる」という意味で、国や一定地域における、文字が読み書きできる人の割合を「識字率」といいます。世界の識字率を見た場合、15歳〜24歳の男女では1990年の時点で83%でしたが、2015年になると91%まで上がりました。しかしながら、現代においても15歳未満で学校に行けない子供の数は、約1億2,100人で、さらに満足な教育を受けられずに、文字の読み書きができないまま大人になった人の数は、約7億7,300万人にのぼります。世界の総人口のうち、約6人に1人が読み書きできないのです。国際識字デーが定められた背景には、開発途上国の低い識字率がありました。北アメリカやヨーロッパ、東アジアなど、教育環境が整っている国々と比べた場合、例えば、アフリカ諸国の中には、今でも識字率が40%を下回っている国があります。その原因として、貧困・差別・戦争などによって教育環境が不十分になっていることがあります。学校があったとしても、何時間も歩く必要があったり、教

育の質が低いことも大きな理由です。また、識字率の低い地域では、宗教や風習、価値観から、特に男性よりも女性の識字率が低い傾向にあります。識字ができなければ、日常生活に大きな支障や危険性をもたらします。例えば、病気やケガなどで医者から薬を処方されても、文字が読めなければ、正しく薬を飲むことができないし、実際に薬と薬を間違えて誤飲するといったケースもあります。また、仕事においても、マニュアルを読み、手順通りに作業を進めるとか、報告書をまとめることなどができませんから、希望する仕事や安定した職業に就くことができません。貧困から抜け出すことができません。字が読めないため、正しい情報を得ることができなかつたり、必要な情報を理解することができません。実際に文字が読めないため、「土地をだまし取られる」とか「悲惨な状況で働かされる」などの問題が今も発生しています。ロータリークラブの財団プログラム





環境



地域社会の
経済発展



基本的教育と
識字率向上



母子の健康



水と衛生



疾病予防と治療



平和構築と
紛争予防

ラムにグローバル補助金を活用した国際奉仕活動があります。これが国際ロータリーが掲げる7つの重点分野の少なくとも1つの目標に合致していなければなりません。この7つの重点分野の中には、「基本的教育と識字率向上」という目標が掲げられていますので、ロータリークラブは奉仕活動を通じて識字率向上に貢献しているというところで、ロータリー歴の浅い会員の方にも知っていただきたいと思えます。

ありがとうございます。

01000「国際職人」

■新会員卓話

「ロータリアンのたすきを続けたい」 内藤 啓書さん

皆様、こんにちは。7月より入会いたしました内藤啓書と申します。この度は歴史ある名門屋大須

ロータリークラブに名を連ねさせていたたくお許しをいただき、そして晴れてロータリアンとして迎え入れていただきましてありがとうございます。本日は新会員卓話として貴重なお時間をいただきましたので懽々ながら、私の自己紹介を兼ねた内容でお話をさせていただきます。このように自分についてのことを大勢の前で卓話としてお話する機会は、これから以後もないことだと思えますので、15分間楽しんでお話をできたらと思いますのでお付き合いいただけましたら幸いです。

この度、ロータリークラブに入会して、まず最初に事務局さんから会員名簿を提出していただきたいいわれました。その会員名簿の記入項目が面白くて、自分が記入しなければならぬことも忘れて、しばらく先輩方の会員名簿を読みふけてしまいました。そこで、折角ですので、私の会員名簿を映しながらお話を続けさせていただきます。よろしくお願いいたします。

さて私、内藤啓書ですが昭和50年10月30日生まれ、来月で47歳になります。まずは私の名前についてお話ししたいと思います。私の名前は易学者につけていただいたと聞いています。父親をはじめ叔父や妹、従兄弟まで、この方に命名いただいたというので、それぞれ特徴的な名前です。しかし、



私が幼稚園や小学生の頃は、今のよつに特徴的な名前や人とは違つ名前の方も少なく、「けいぎ」という名前の響きが、変わった名前とか、美味しそうなる名前とか、言われることが多く、母親も産後に病院で療養している時に祖父が来て私を抱き上げ、「けいぎ、

けいぎ」と言っているのを聞いた時は、まさか赤ちゃんの名前のことだとは思わなかったと言っていたくらいで、子どもの頃は私自身も安易に違つ名前がよかったな、と思ったこともありました。

しかし、最近ではいわゆるキラキネネームもあふれている時代ですので驚かれもせぬし、逆に名前を覚えていただき易く、何よりも名前の由来である啓(ひ)ろく(世の中へ喜びをもたらす)ことができる人であるように、という意味が好きで、この名前を頂くことができたことに今は非常に感謝しています。また奉仕の理念を

基礎とするロータリークラブ入会させていただけただことで、名前に恥じることはないように、わずかでも世の中へ喜びをもたらすことができる社会貢献ができればと考えています。

次に家族と趣味についてです。家族はスノーボードが縁で知り合った妻と二人の娘がいます。スノーボードは趣味として大学時代から続けていましたが、昨年足首の腱を損傷してからは滑ることができなくなっていました。現在はスノーボードライミングとして東京オリンピックの正式種目にも採用されたボルダリングを、妻はママさんバレーを趣味として楽しんでいきます。ただ、私と妻ではスポーツの志向が全く違い、私は球技と団体競技が苦手なため、単独で楽しんでみたくはないスポーツが好きで、妻は反対に団体競技で球技が好きだそうです。

折角ですので、今日はボルダリング仲間撮ってもらった動画がありますのでボルダリングの様子をご覧くださいと思います。尾上さんの社屋の地下にもクライミングジムがあり、たまにお邪魔させていただきますが、今回の動画は恐



縮ですが他のジムでの「コマヤです。ボルダリングは体幹をはじめ全身の筋肉を使いますので筋力維持にもなりますし、何より自分の身ひとつで行うスポーツですので手軽にできておすすめです。機会があれば一緒に練習しますのでお声かけいただけたいと思います。

娘たちは早いもので高校2年生と中学2年生になり、二人とも身長も160cm前後まで伸び、女の子だけの考え方や使う言葉もすっかり大人です。学校では陸上部とバレーボール部に所属して汗を流しています。私も妻も学生時代は部活に入っていましたので、部活という場所が、体を動かすことだけでなく、部活というコミュニティの中で上下関係や他人との共同生活の仕方、コミュニケーションの取り方を身に着けることができる場所だということを知っていますので、続けていくなれば嬉しい限りです。

その娘たちは数年前、当クラブの家族忘年会の折、ちょうどエリントンがゲストで招かれた時に元会員である私の父について、参加していただきましたので覚えていただけている方もいらっしゃるかもしれません。私も子どもの頃には父親に連れられて当クラブの家族忘年会に参加したことを今でもはっきりと覚えていて、今年はその会に自分自身がロータリアンとして

また娘たちを連れて参加できるとを今から楽しみにしています。

最後に家業の話をお話させていただきます。私は、名古屋の下町大須のすぐ南隣、中区阿前町で生まれ育ちました。また現在もそのすぐ近くの橋という場所に住んでいます。阿前町は各前の通り、お寺の門の前の町として、浄土真宗本願寺派の名古屋別院（通称：西別院）をはじめ数々の寺院が立ち並び、古くは南寺町と呼ばれていた地域に属します。

お寺がたくさんあれば必然的に関連する仏壇店や仏具店も多く集まり、今でも阿前町にはたくさん仏壇仏具店が軒を連ねています。そんな阿前町の中で仏壇店を経営していた内藤家は曾祖父の代から名古屋で仏壇に携わる仕事をはじめ、祖父の代に卸業から徐々に小売業を始めました。その家の長男として生まれ、高校生の頃までは店舗の上に自宅がありましたので、朝夕にたくさん仏壇が並び店先を通過して通学することが当たり前のことで、土日には、祖父母や両親みながお客様の対応をしている姿を自然と目にしたので、食卓でも仕事の内容の話が日常的に交わられている中で育ちましたし、小学生の頃にはお客様がいない時は店先で展示品の真鍮磨きや仏壇の金具打ちを自然と手伝っていたことを覚えておられます。

大学を卒業後にはそのまま自社に入社して仏壇の仕事を始めましたが、やはりそのような環境で育つたためか、何も違和感なく仕事を始めることができ、また仏壇屋という仕事自体がずっと面白くて今日に至るまでできています。父からはよく怒られたり、説教を食われることもありましたが、自然と仕事のやり方や取り組み方を背中で見せて示してくれることが、何よりも説得力があり身に染みて学ぶことが多いです。

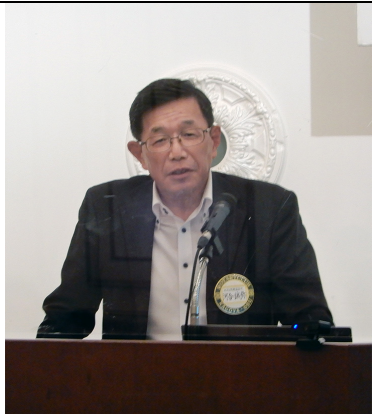
そんな父から、今回はロータリアンとしてのたすきを受け継ぐことになり、実は祖父もクラブは違いますがロータリアンでしたので、内藤家ではロータリアン三代目ということになりました。仕事もそうですが、ロータリー活動も時代と共に変わっていかねばならぬということもあると思います。しかし、ロータリー活動においても父が自然と背中で見せ示してくれたことを感じ出しながら、受け継いだたすきをしっかりと結び、私なりのロータリアンとして精進していきたいと思っています。

何分、浅学非才の若輩者ですが、皆様方よりご指導ご鞭撻を賜ることも多くご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、これからご一緒させていただきたいと思います。このごめのない拙い話でしたが

最後までご清聴いただきましてありがとうございます。

■新会員卓話 「恵まれた出会い」

河合 誠弥さん



こんにちは。七月より入会させて頂きました河合誠弥です。本日新会員卓話の場を頂き、誠に有り難うございます。私のこれまでの経歴と共に出会いのお話をさせて頂き、私という人間を知って頂く事で皆様との距離が少しでも近づければと思っております。

まずは自己紹介をさせて頂きます。名前は河合誠弥、昭和36年1月25日牛年生まれの61歳、血液型はA型です。家族は、妻とは17年前に死別しており、今年25歳になった娘が一人おります。その娘は1月より東京で暮らしており、現在は愛知県東郷町で一人暮らしの生活を送っております。私は愛知県の碧南市で生まれま

したが幼少期から小学校の途中までは三重県四日市市で、小学校の途中から高等学校卒業までを鈴鹿市で過ごしました。鈴鹿市の地元の小・中学校を卒業し、海星高等学校普通科、愛知学院大学商学部と進学しました。大学は実家から通えない事もなかったのですが、就職するまでの4年間を自由に過ごしたい思いで親の目の届かない愛知県に出でて来て通う事にしました。大学時代は自由を満喫し、特別な女性と良き同級生・先輩に出会えました。特別な女性とは後の妻となり、良き同級生・先輩とは現在もお付き合いを続けさせて頂いております。ただ、自由を満喫し過ぎた為に、大学を4年間で卒業するのに後半かなりの苦労しました。その経験から、時間を無駄に使えば必ずその後に取り戻す努力が必要になる事を教えられました。

大学で社会に出てどの様な事がやりたいかを見つけれないまま、今の会社に入社する事になりました。入社した会社は工場製造業を中心にルートセールスをする水処理会社でしたが、私は水処理の事など聞いた事も見た事もありませんでした。当時会社はメイン事業を水処理薬品販売としており、創立2年目に水処理機器販売事業を立ち上げようとしているところで、その水処理機器販売事業を担当する事になりました。入社して

から知なのですが、会社が扱う水処理薬品は薬品を水に添加する事により、水の中で金属が錆びない、藻類が育たない、析出物が物に付かない水にするものであり、水処理機器は装置又は設備に水を通す事により、泥水を清水に、電気を通さない水に、直接河川に流せる水にするものでした。この様な水処理機器販売を行うのに化学・物理も一から勉強のし直しでしたが、この仕事をやり続ける限り必要である事に気づかされ、後に業務に関わる資格も習得しました。今では社員に資格取得を義務付けております。

会社は水処理機器販売事業を立ち上げようとしていましたが、水処理機器を教える知識と経験がなかったため入社と同時に社員としての一般常識と水処理機器販売の営業スキルを身に付けさせる目的で、私を栗田工業株式会社に出向させて頂きました。特に指導員をして頂いた方には、出向先には私以外に年下がおらず公私関わらず気遣って頂きました。人を指導する時は内面まで理解して指導する事を気づかされました。結局、色々な出会いと理由を経て5年間出向する事となりました。最後は出向先から転職のお誘いまで頂き驚きましたが、その様なお誘いを頂いた事は会社に戻ってもやっといける大きな自信となりました。

しかし、お世話になりましたが、出向先の自分目線の営業スタイルには共感出来ず、お客様目線の営業スタイルを貫く事を心に誓い今の会社に戻りました。ただ当時の出向先メンバーの方には、戻ってから同じ職場で働いた仲間としてお付き合いを続けて頂き、まだ退職されるまで何かにつけて気にかけて心配もして頂いた事を感謝しております。

この5年をもって会社に戻り、一人で水処理機器販売営業を担当しました。戻ってすぐ結果を出す事は出来ませんでした。水処理薬品のように添加して消費され無くなってしまふのとは違い、仕事が生産として残る水処理機器は私の性格に合っており、凄くやりがいを感じ我武者羅に働きました。少ずつ水処理機器の整備・メンテナンスをさせて頂く事でお客様からの信用・信頼が得られ、水処理設備・プラントの請負工事を手掛けるまでになりました。

このころに、他の水処理会社の方と出会い、取引がはじまりました。新たな出会いで、仕事の幅が広がる今まで経験した事のない水処理技術や水処理以外の仕事にも携われ、形として残っていく事が楽しく仕方ありませんでした。この時に、水処理機器販売事業の基礎が出来つつありました。その後、経験を積み重ね実績を残す事

で、採算も取れ出し水処理機器販売の新人社員も採用して頂き、会社の中で水処理機器販売事業として確立し始め現在に至ります。

現在会社には16名の営業職の社員がおりますが、内11名が水処理薬品販売に5名が水処理機器販売に従事しております。40年前にゼロからの立ち上げた事業は、売上比率が当時10対0でしたが、現在6対4までになりました。ここまで来れたのも、お客様、仕入先協力会社の皆様に出会い助けて頂き、またお付き合いし続けて頂いたからこそです。本当にいい方々と出会い、支えて頂き感謝しております。会社でも、出会えた全ての人に感謝する心を持つ社員を育てていきたいと思っております。

振り返りますと今の会社に入社した事が私の社会人としての出会いのスタートですが、そのスタートを作ったのが前代表でした。前代表は私が出向した会社出身で、背も高く声も大きく仕事では気性の激しいとても威圧感のある創業者でありました。しかし、前代表が私を採用してくれず、出向もさせず、水処理機器販売事業の担当に指名しなければ、私は今ここに居なかったと思いますので前代表との出会いには心から感謝しております。5年間は入社と同時に出向しておりましたので、前代表がロータリークラブに入会し

ている事も知りませんでした。出向先から今の会社に帰って来て水処理機器販売事業が確立し始めた時期に、ロータリークラブでお付き合い頂いている方からの仕事を担当させて頂いたり仕事で協力して頂いたりして、ロータリークラブに入会している事を知りました。ただ、前代表は会社内でロータリークラブの事を殆ど喋らず、私も業務に追われる日々でしたので聞く機会もありませんでした。毎日「ロータリー」と言い残して終業時間前に出かける姿に、ロータリークラブは大変なところだと思っただ記憶があります。

でも前代表の実状を皆様からお聞かせ頂き、全く違っていた事を最近知りました。前代表は、名古屋大須ロータリークラブで2年半前まで皆様と活動とお付き合いを共にさせて頂いておりました故吉田明夫です。前代表との出会い、育ててくれた方々との出会い、助けて頂いた方々との出会い、また本日お話出来ない方々との数知れない出会いを重ね現在に至り感謝してもし尽せない恵まれた出会いの積み重ねだと思っております。今回、数あるロータリークラブの中で名古屋大須ロータリークラブの皆様と縁あつて出会えた事も私にとって恵まれた出会いと感謝しております。時間の許される限り活動を共にお付き合い頂きご指

導の程よろしくお願い致します。これで本日の卓話を終わらせて頂きます。「清聴有り難うございました」。

その他・お知らせ

ポリオを根絶するの理由 生活の向上

ポリオ根絶活動のおかげで、身体まひにならずにすんだ人の数は1,900万人、命を落とすことのなかった人の数は150万人に上ります。

未来への投資

ポリオが根絶されなければ、今後10年間に、毎年20万人の子どもの身体まひになる可能性があります。ポリオの根絶は、全ての子どものためにより健康な世界をつくることです。

子どもの健康を向上

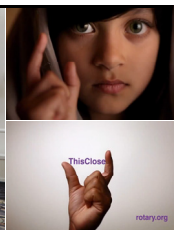
ポリオ根絶のサーベイランス（監視）や予防接種活動では、ピタミン欠乏はしかといったほかの健康問題の検査も行われるため、いち早く対応できます。

ポリオのない世界まであと少し

endpolio.org

Rotary

Jackie Chan



医療費の削減 世界的なポリオ根絶活動により1988年以来、すでに270億ドルの医療費が節約されています。2050年までにさらに140億ドルが節約される予測されています。



ポリオが世界から根絶されれば、天然痘に続いて2番目に根絶される疾病となり、歴史上で最も偉大な公共保健での達成の一つとなります。

歴史をつくる

ポリオが世界から根絶されれば、天然痘に続いて2番目に根絶される疾病となり、歴史上で最も偉大な公共保健での達成の一つとなります。

ポリオアーボータルサイト

<https://www.endpolio.org/club>



9月22日(木)例会の案内

ガバナー補佐訪問

西名古屋分区分ガバナー補佐 川辺 清次さん

- 地区副幹事 吉田 治伸さん
- 地区スタッフ 服部 浩明さん
- 分区分幹事 高橋 司さん
- 分区分副幹事 神谷 大徳さん

公共イメージ向上委員会

- 木村 光徳・近藤宏一郎
 - 萩原 賢一・藤田 徹
- *本文は、原則 頂いた原稿を転載しています。